

1 初期救急診療（調査対象：医師会）

	豊橋市	豊川市	蒲郡市	田原市
実施体制	<p>豊橋市の第一次救急体制では①豊橋市休日夜間急病診療所管理運営事業(内科・小児科)②輪番当直対策推進事業(在宅当番医制)(外科・産婦人科・耳鼻咽喉科・眼科)を行っている。</p> <p>なお、診療科別の参加医療機関数(令和7年4月1日現在)は、内科53医療機関、小児科13医療機関・未所属3名、外科26医療機関、産婦人科10医療機関、耳鼻咽喉科10医療機関、眼科10医療機関となっている。</p>	<p>休日等の初期救急診療体制は、豊川市が設置している「豊川市休日夜間急病診療所」と医師会が実施している「外科系在宅当番医」で対応している。</p> <p>医師会では、365日実施している「豊川市休日夜間急病診療所」に医師の派遣を行っており、「外科系在宅当番医」は、外科、婦人科、眼科、耳鼻科、泌尿器科、皮膚科において、輪番制で土・日曜に行っている。</p>	<p>日曜・祝日は内科、小児科、外科が交代で蒲郡市休日急病診療所に出務(25医療機関)。</p> <p>土曜日は、午後5時から午後8時まで休日急病診療所出務以外の医療機関で当番制(17医療機関)。それ以外は、蒲郡市民病院。</p>	<p>日祝日は当直、平日夜間当直は在宅当番医制</p>
現体制の課題	<p>高齢化に伴う実施医療機関数の減少、人件費の高騰、スタッフの確保困難。</p> <p>年末年始などの繁忙期対策。</p>	<p>「豊川市休日夜間急病診療所」では、感染症の流行時期である12月から1月までは従事医師の増員を行うこともあり、従事医師への負担が増加している。また、「外科系在宅当番医」を含め、医師、医療従事者及び事務職員の人手不足が生じている。</p>	<p>医師、看護師、事務員の人手不足(特に年末年始)</p>	<p>人手不足。</p> <p>1年のうちで当直医不在の日がある。</p>
不足	<u>感じている。</u>	<u>感じている。</u>	<u>感じている。</u>	<u>感じている。</u>

3 産業医（調査対象：医師会）

	豊橋市	豊川市	蒲郡市	田原市
実施体制	<ul style="list-style-type: none"> 医師会に依頼があった場合、事務局裁量で各医師に対応を依頼。 人数について 産業医資格保有者109人 うち、嘱託産業医業務受注可能な人数13人 (昨年アンケート結果より) 	<p>事業者からの依頼に基づき、医師会員にその旨を周知し、従事が可能な医師を募っている。</p>	<p>産業医の依頼に対して、担当理事が資格を持っている会員に依頼。</p>	<p>企業からの依頼があった際に、産業医資格を所持している医師に医師会事務局から依頼の連絡をする</p>
現体制の課題	<p>昨今、Webサイトを介して産業医を探し、民間紹介会社へ委託する例も増えていくとみられるため、当会では産業医斡旋のWebページを作成中です。</p>	<p>応募者の固定化により、複数の事業所を担当するケースも見受けられる。</p>	<p>産業医の資格を持っている会員が減っている。</p>	<p>協力機関の不足</p>
不足	<u>感じている。</u>	<u>感じている。</u>	<u>感じている。</u>	<u>感じている。</u>

2 在宅医療（調査対象：3師会）

(1) 医師会

	豊橋市	豊川市	蒲郡市	田原市
実施体制	豊橋市の在宅療養診療所は32か所、その内医師会員は26か所。	診療所17か所（+病院4か所）	17か所	16か所（訪問診療13、往診のみ3）
現体制の課題	豊橋市には医師会未入会の在宅療養支援診療所（在宅専門クリニック）が6か所あり、この6診療所が在宅療養患者数全体の約半数を担当している。これは豊橋市保健所の調査により明らかになった。医師会主導の調査ではこの結果は得ることは不可能であり、在宅医療の実態調査は医師会主導では不可能であり、保健所が調査することが望ましいと考える。 基幹病院の退院調整においても、医師会未加入の在宅専門クリニックへ多くの患者が紹介されている現状もあり、医師会員の在宅療養支援診療所では、希望しても紹介患者がほとんど来ない現象もみられている。2025年を迎えて在宅療養患者も増えているが、当市においてはすでに在宅患者の取り合いが起こっている。	在宅医療に必要な連携を担う拠点が明らかでないため、在宅診療を担っている医師の負担が増えていると感じる。また、新型コロナウイルス感染症が2類感染症相当の頃、非会員医師との適切な連携・管理が出来なかったケースがあった。	在宅診療は医師だけでは行えず、訪問看護や訪問介護の力も必要である。現状では市内で訪問介護等が十分に提供できる体制ではなく、自宅で安心して医療を受けることができないケースもある。また退院時においても、自宅ではなくサ高住へ移るケースも多く、自宅で医療や介護を受けたいという患者や家族の意向に添えないことが課題となっている。	担い手不足、高齢化
不足	感じていない。	<u>感じている。</u>	<u>感じている。</u>	<u>感じている。</u>

(2) 歯科医師会

	豊橋市	豊川市	蒲郡市	田原市
実施体制	52か所	およそ40か所	27か所	15か所
現体制の課題	ごく少数の医療機関に8割程度の症例が集中している。	歯科医院側の訪問条件が極めて限局的（時間、距離）なため、実際には訪問できていない。	まだ口腔ケアの必要性が認識されておらず、どちらかという治療（入れ歯や抜歯）優位である。ケアマネジャーや介護士に口腔ケアの重要性を知ってほしい。	担い手不足
不足	<u>感じている。</u>	<u>感じている。</u>	<u>感じている。</u>	<u>感じている。</u>

(3) 薬剤師会

	豊橋市	豊川市	蒲郡市	田原市
実施体制	90か所	47か所	47か所	19か所
現体制の課題	在宅対応できる薬局数は約90か所あるが、実際に訪問に出られる薬剤師が限られており、一部の薬剤師に負担が集中している。 夜間・休日の緊急対応を行う際の当番制・バックアップ体制が十分でない。	小規模薬局も多く、24時間対応できる薬局が少ない、また負担が大きい。 医薬品流通不足、卸の配送回数減少により、麻薬などの納品に時間がかかる。すぐに医薬品が準備出来ない時も多い。 企業間の考え方の違いなどもあり、情報共有、薬局連携が十分とは言えない。	調剤業務以外での地域活動する薬剤師の担い手不足を感じている。	在宅診療においては、地区ごとに医療資源の分布に偏りがみられ、一部の地域では十分なサービス提供が困難な状況となっている。
不足	感じていない。	<u>感じている。</u>	感じていない。	<u>感じている。</u>

4 学校医（調査対象：医師会、歯科医師会）

(1) 医師会

	豊橋市	豊川市	蒲郡市	田原市
実施体制	<p>医師会事務局にて当市における市立・県立学校の学校医担当を網羅し、辞任や交代希望があれば、内科については学校医担当理事、耳鼻科、眼科については各担当医師に選任をお願いしている。選任の仕方については各担当医師に一任しているが、必要な情報データ等については事務局で作成し、情報提供を行っている。</p> <p>人員の確保については現状一番の課題となり、診療所だけでなく、病院のB会員をお願いする等試みているが、今ひとつ解決に結びつかない。</p>	<p>公立の保育園、小学校、中学校については、医師会において従事医師を選定している。</p>	<p>内科医を1校につき、1名か2名。眼科医・耳鼻科医は1校につき1名。（耳鼻科は、小学校のみ）</p>	<p>医師会より依頼</p>
現体制の課題	<p>新規開業が少なく、後任不足が目立つ。現担当医師の高齢化が進み、今後も学校医が減少傾向にあるのは明らかである。</p> <p>また、報酬金額に納得いかず、学校医の依頼に応じない医師がいる事も懸念される。</p>	<p>人員の不足から、複数の学校を受け持つケースがある。特に眼科、耳鼻科の医師不足が顕著である。</p> <p>また、令和5年度から中学校の女子生徒の健診を女性医師が行うように配置しているが、女性医師の確保に課題がある。</p>	<p>眼科医・耳鼻科医が少なく、1名で数校担当している。</p>	<p>人手不足、高齢化による担い手不足</p>
不足	<p>感じていない。</p>	<p><u>感じている。</u></p>	<p><u>感じている。</u></p>	<p><u>感じている。</u></p>

(2) 歯科医師会

	豊橋市	豊川市	蒲郡市	田原市
実施体制	<p>豊橋市歯科医師会内の学校歯科部会が中心となり、学校歯科医の割り当てを行います。学校歯科医の資格については毎年4月に開催される園・学校歯科医研修会研修会への参加を義務付けています。</p> <p>特定の大規模校や複数の学校を担当する会員の業務負担が過重にならないよう、適宜、人員配置のバランスを見直しています。</p>	<p>該当校区、付近の会員歯科医師を学校に紹介。</p>	<p>会員一人一校(園)を受け持ってもらっている。中には数例二校(園)を受け持つ場合もある。</p>	<p>70歳以下の先生に依頼、担当してもらっている。</p>
現体制の課題	<p>今後会員の高齢化に伴い学校歯科医の確保が難しくなることが予想されます。複数校を担当する学校歯科医は、業務負担の軽減が大きな課題となると思われます。</p> <p>学校側との間で、健診結果の活用方法や事後措置の徹底に関する意識統一を図るための連携体制の強化が望まれます。特に、事後措置率の向上には、歯科医師会だけでなく、学校側の協力も不可欠です。</p>	<p>特になし。</p>	<p>今はよいが、10年後には確実に人員不足となり、複数の校医・園医を担当することになる。</p>	<p>人員不足</p>
不足	<p>感じていない。</p>	<p>感じていない。</p>	<p>感じていない。</p>	<p><u>感じている。</u></p>

5 予防接種（調査対象：医師会、歯科医師会）

(1) 医師会

	豊橋市	豊川市	蒲郡市	田原市
実施体制	<p><小児> 豊橋市と豊橋市医師会で委託契約を締結し、実施受諾医療機関で個別接種を行っている。接種日に豊橋市に住民登録のある者が対象となり、愛知県内の他市区町村については愛知県広域予防接種事業にて実施。 豊橋市医師会の会員である医療機関で、毎年開催する予防接種講習会に参加し、実施することを承諾することが必須となっている。 実施受諾医療機関は予防接種実施後、豊橋市医師会臨床検査センターへ予診票を提出する。予診票は検査センターでチェックと入力を行い予診票と入力データを豊橋市へ提出する。</p> <p><高齢者> 契約や実施医療機関については小児期と同様。高齢者のうち、インフルエンザと新型コロナの定期接種については予診票の提出は豊橋市医師会事務局となり、事務局で枚数のチェックと件数の入力を行い、予診票と入力データを豊橋市へ提出する。</p>	<p><小児・高齢者> 医療機関による個別接種で対応している。</p>	<p><小児・高齢者> 個別医療機関での接種。</p>	<p><小児・高齢者> 個別接種。</p>
現体制題	<p>ワクチンの安定した供給体制、ワクチンの種類増加による接種計画の複雑化。 小児科医療機関の減少による集中。</p>	<p>課題として、ワクチンの安定供給の維持が考えられる。</p>	<p>MRワクチンの供給が不安定。 おたふくかぜワクチンの定期予防接種化が望ましい。 市からの予防接種委託料が諸物価高騰にもかかわらず据え置きになっている。 子宮頸がんワクチンの接種率が低い。</p>	<p>特になし。</p>
不足	<p>感じている。</p>	<p>感じていない。</p>	<p>感じている。</p>	<p>感じていない。</p>

(2) 歯科医師会

	豊橋市	豊川市	蒲郡市	田原市
現体制題	<p>特になし。</p>	<p>特になし。</p>	<p>特になし。</p>	<p>歯科医師会に依頼はない。</p>
不足	<p>感じていない。</p>	<p>感じていない。</p>	<p>感じていない。</p>	<p>感じていない。</p>

6 その他（自由記載）

	豊橋市	豊川市	蒲郡市	田原市
医師会	/			
歯科医師会	/			
薬剤師会	<p>医師・訪問看護・ケアマネジャーとの情報共有がFAX・電話中心で、タイムリーさに欠けることがある。</p>	<p>マイナンバーによる情報共有、電子処方箋やオンラインの活用など、急激なICT化を必要とされているが、理解や整備が追い付いていかない。</p>	<p>確実に歯科医師数が減少し、残った先生に負担がかかる。 また、歯科衛生士、歯科技工士も不足し、今後十分な診療ができるか不安である。</p>	<p>高齢化による廃院等により、外来医療機能は十分機能しないように近い将来なる</p>